

ネットワークエンジニア ひよこ倶楽部 ぜん吉さん

2008年 CCIE R&S 1回目

本日（2008年3月13日）の朝方6時に自分の合格を知りました。

はっきり言って落ちたと思いました。今でも信じられない気持ちでブログを書いています。時折CCIEステータスのページを見て自分の勘違いではないかと何度も確認しました。

さて、私はこのブログを始めたのはちょうど1年前で、その時はまだCCNPも取得しておらず、気持ちだけはいつかはCCIEになろうと考えていました。さらに遡って2年前の2006年4月にCCNAなる資格を新入社員研修の一環として始めて知りました。それ以前は大学院でネットワークセキュリティ（IDS）の研究していましたが資格にはあまり関心なく、シスコもしらない状態でした。

CCNAに合格したのは2006年7月で、それなりに勉強したのを憶えています。同期の3割ほど取得したのでがんばった割にはあまり喜ばませんでした。その時は早くCCNPをとって差をつけようとして計画しました。そして、CCNPをとったのは2007年3月のことでした。このとき、同期の中で3%以下しかCCNPを持っておらず、また自分が所属している支店の中でもCCNPあるのは自分ぐらいだったので、かなりうかれてました。さらにCCIEを目指さなくても十分満足と感じていました。周りの同期や、人事からもすごいすごいと言われたので、自分もかなりその気になってました。今考えるとちょっと恥ずかしいです。

しかし、すぐにCCNPだけでは全然だめだと感じるようになりました。もちろん、実務経験十分な人は話は別ですが、私のような実務経験なしの人間がCCNP持ってるぐらいでは全然話にならないことがすぐに気づきました。加えて、オークションなどで出回っている試験問題を使えばたとえ知識なくても誰でも簡単に合格でき、まじめにシスコプレスから読んでから試験に臨む人間にとっては、努力してもあまり評価されないということです。以上のような事情で私はどうせとるならCCIEをとってやる！と決心しました。さすがにCCIE合格したらけちをつける人間も少なくなるだろうと思いました。

CCIE取得を決心したのはいいが、何すべきかはまったく分かりませんでした。そこで、CCIEに合格されたブロガーを参考に手探りで始めました。大抵のCCIEブログを読ませていただきました。その中でTOMOさんの旧ブログ（現存せず。残念。）は私にとって大変貴重な資料で、悩んだり、迷ったりしたときは必死にブログを読み返してヒントを探していました。CCIEを目指す人なら皆必ず同じ道を通ることになり、言い換えれば同じ壁にぶち当たるので、先人たちの記録はそんな時の助けともなりえます。

そして、いよいよ機器集めやCCIE勉強を本格に始めました。内容はこのブログに詳細を残してますので、ここではあえて詳しく書きません。

1年間の準備の末、翌日のラボを控えて2008年3月11日に新宿に入りました。三井ビルから徒歩10分のところにホテルを予約して最後の調整（といってもノートをパラパラ読み直す程度）をしました。

翌朝 7 時にアラーム 3 つセットして 2 3 時に就寝。ぐっすり眠れました。朝方に夢を見てなんかの競争で 1 位をとって、「アイアム チャンピオン!!!」と寝言を言いながら、急に目をさめましたw この時に時計はちょうど 6 時。最近滅多にない目覚めのいい朝だったので、そのまま顔を洗って、軽めの朝食を取りました。

8 時にホテルから出て、約 1 5 分徒歩で試験場に着きました。道中はひんやりした空気がとても気持ちよく、意外と緊張していない自分がいました。三井ビル向かう途中で何度か自分を鼓舞するため心の中で「ちくしょー!! やってやる!!! 絶対にやってやる!!!」と叫びました。三井ビル 8 階の試験場に入ると既に半分ぐらいの受験者がいました。プロクタに飲み物勧められたが、「No, Thank you!」と言って、断れる日本人をアピールしたのではなく、初めから飲むつもりはなかったです。理由は簡単、尿意で集中力途切れるのが馬鹿馬鹿しいからです。どうやら本日の試験は急な機器設定を要するため 1 時間遅れるらしいことを告げられ、バージョンアップでは? と少しだけ不安になりました。待機している間は受験者 8 人全員沈黙していましたが、そのうち韓国から来た受験者同士でお喋りはじまって、次に中国系の人たちも会話に参加して C C I E に関する話題で盛り上がってました。一方、3 人の日本人はまるでここがアウェイのように最後までだんまりでした。もっとアグレッシブにならないとなぁ~と思いつつ 1 0 時ちょうどにラボルームに通されました。

午前 1 0 時、待ちに待ったラボルームに入り、プロクタから試験概要とパソコン操作の説明を受けました。雑音が気になる方はヘッドホンもそばに置いてます。筆記用具は紙 2 枚(終了後回収) ペン、カラーペン、シャーペン、消しゴムです。試験問題を収めているクリアファイルはかなり使用されてぼろいです。そして手垢などでベタベタしている上、ちょっと臭いです。そして、約 1 0 分の説明を終え、1 0 時 1 0 分に試験開始!

試験開始後、しばらくは問題を読みましたが、印象として問題文はワークブックよりも短く、知らなさそうなこともないように感じました。トポロジの書き方はワークブックとちょっと違うので、ワークブック慣れしている私にとってすこし戸惑いました。しかし、理解できないほどのものではありません。目標は 5 時間で一通り設定して、残りの 3 時間で見直しをすることに決めました。

問題を一通り読み終えた後、機器の設定内容を見てイニシャルエラーと思われるところは私の場合はないように見えたので、そのまま問題に進みました。というのも、ここで時間をかけてエラーを探すのは時間の無駄と考えています。なぜなら、エラーがあればそのうち疎通問題や制約問題に自然とかかるので、そのときに対処すれば良い訳でと考えているからです。

最初のフレームリレーのセクションはあらゆる問題パターンをワークブックを通してやったので、自分の中では得意分野です。難なく全てを設定し、疎通も完璧に確認できました。次はラボ試験の肝とも言える I G P セクションで、私が問題を読んだかぎりではひねくれた問題や曖昧な問題はなく、これあれせよ! という単刀直入なものばかりでしたので、すいすいと進みました。しかし世の中はそう簡単なものではありません。設定が完璧なルーティングでネイバーが張れないことに気づきました。なぜだ! そんな馬鹿な! 俺はこんなイージーミスを起こさないはずなのにと思いつつ、自分が確立したトラブルシューティング手順で 1 つ 1 つ確認したところ原因がわかりました。そして、試験開始 2 時間 3 0 分

過ぎて I G P 8 割終わったところで午前終了。いいペースです。特に分からない問題もなくこのままなら 5 時間以内でいけると確信しました。

そ・し・て お楽しみの 17 万円の弁当だぁ！おらぁー！食ってやるぞ！

当日の弁当は萬作の洋風お得意膳。

どれ！皆がまずいまずいって言うけど俺は決してそんなの信じない。だって 17 万の弁当だからね。

一口パクッ . . . . . (・A・)ｽﾞｰ

正直、今日唯一の楽しみが奪われた瞬間でした。なるほど。皆がまずいって言うのはなんとなく分かった気がした。ここで、ようやく水を飲みました。弁当は半分のこしてごちそうさん。すこし空腹の方が眠らずに済むし、これも戦略の一つ。昼休みに 1 回トイレ行き、10 分休憩して午後の部の始まりです。今日は開始時間遅れたので、午後は 5 時間 30 分の長丁場となりました。これに備えて私はペットボトル 1 本持ってラボルームに入りました。もちろん飲むためではなく、口の渴きを潤す程度で、できるだけ同じコンディションで午後通しでやろうとおもいました。

午後は 13 時 10 分～18 時 40 分の 5 時間 30 分の戦いです。

特に午前の設定確認を見直すことなく I G P の残りを 15 分ぐらいで片付けました。I G P 終わったところで設定保存。自分の場合、問題見開き 2 ページ分終わったら適宜保存するようにしました。予想されるトラブルは事前に最小限に留めることにも留意しなければならない、たとえ機器トラブルでも、全て自己責任なのである。

I G P の次は I O S フィーチャーだったけど、自分のリズムとしては I G P B G P その他だったので、一番最後のセクションの B G P に取り掛かりました。B G P の問題もそれほど難しくなく、ワークブックと比べればやさしいものでした。自分の手持ちルータで確認できなかったコマンドを使用した問題もあったので、今日一番の不安でした。やはり自分で設定した経験がないので、ミス続出。しかし、難しい問題ではなく落ち着いて対処してなんとか制約条件も満たし、ほっとしました。残りもワークブックを 120 回やった自分にとっては見たことのないものはなくそれなりに設定して、問題を一通り終えました。この時の時計はちょうど 15 時になっていて、試験開始から 4 時間 20 分経ったところであった。まさか、こんな早くできるなんて思わなかったです。でも、ここで気を緩むことなく、ここからが本当の勝負の見直しの始まりです。

見直しに入る前に 3 つほど曖昧な設問があり、どれも制約は特にかかれていなく、複数の解法で解けそうな問題だったので、まとめプロクタに質問（もちろん英語で）しました。

俺 . . . すみません。。ちょっといいですか？

ブ . . . なんででしょうか？

俺 . . . 3 つほど質問があります。

ブ . . . はい。いいですよ。

俺 . . . 設問 A に A A A A A の技術を使用してもいいですか？

ブ . . . 制約なければ何使ってもいいですよ！

俺 . . . 設問 B に B B B B B の技術を使用してもいいですか？

プ . . . OK！これも制約ないから何してもいいですよ！  
俺 . . . 設問CにCCCCCの技術を使用してもいいですか？  
プ . . . （苦笑い）OK！CCIEの試験は制約守ればあとは基本的に自由です。  
俺 . . . ありがとうございます。  
プ . . . （こいつ！同じことを3回も聞きやがって！）

そう、CCIEの試験は制約守ればあとは受験者の自由にできることを再確認した。これが、あとの見直しで大きな助けとなりました。

見直しに入る前に、余った時間を有効に活用するため2回見直しする次のような作戦を立てました。

各設問の制約や要求事項を満たすかどうかの show コマンド中心での確認

各機器の show run の1行ごとにチェックして細部までの間違いを探し出す

作戦 では4箇所の間違がありました。やはり見直しは重要で、たとえ自分が完璧に設定したとおもってもタイピングミスなどがあります。しかしタイピングミス以外にも、設問前後に発動されるトラブルにも気づくことがあります。たとえば試験前半で完璧に設定できたとおもった内容でも、後半の設問の設定で前半の制約を破ることもあります。こんなことはワークブックでも多く経験したことあるので、あせらずに対処します。また、自分で勝手に制約をつくって設定したものがうまく動けず、困ったものもあったが、プロクタの「問題の制約以外は基本的に自由」という言葉を思い出し、難なく解決。そうです！これはテストです。現実のネットワーク設定ではありません。制約さえ守れば点数もらえます。ある程度割り切ってやる気持ちも大事です。

作戦 の時は殆んど間違いが修正されて、設定内容の1行1行を指で追って、瞬きせずに隅々までチェックして1箇所の設定漏れを確認できました。

最後の Switch 設定を見直したところで終了1分前。ジェームスさんから設定の保存をするようと言われ、迷うことなくガレ兵さんのテクニックを盗んで各機器に2回ずつ write memory 叩いて終了。

最後の1分まで俺は怯まずに闘った。分からない問題もなく、全ての設問に自分の持っている限りの力を出せた。はっきり言って、これで落ちてても悔いなし！ただ全力投球できたことに満足して試験場を後にしました。

結果は既にブログで公開したとおり合格でした。

1年間は長いようで本当に短い期間でした。これで、会社全体でも数えるぐらいしかいないCCIEホルダーになることができました。次の目標はセキュリティトラックを考えています。その前準備は既に始まっていて、1月のSND、2月のSNRS試験合格はR/Sのセキュリティセクション対策のみではなく、実はこの先いつか訪れるセキュリティトラックに備えるためのものでした。CCIE R/S

合格したからはっきりと告白できたことです。

というわけで、長文駄文で申し訳なかったのですが、以上が私のCCIE R/S受験記とさせていただきます。

2008年3月13日

ぜん吉 CCIE # 20259